

教育実習の感想

[国立 O 高等学校 公民] 氏名：N.N

1. 感想

2 週間という実習期間は、大変短く感じられた。実地授業の準備を行うだけで日々が過ぎ、学級指導では十分に生徒とコミュニケーションをとる時間を作れず、組織としての学校実態を詳しく知ることも十分にできなかった。私は実習を通じて、自分の実力不足を認識することができた。特に、教材研究と学習指導案作成は想像を絶するほど大変だった。

教科指導を担当して下さった先生は、私が在学中にお世話になった先生であり、当時の私はその先生の授業を楽しみにしていた。言葉には表せないが、自身の興味・関心を高められるような感覚を味わっていた。実習を終えた今わかるのは、その先生の授業では生徒が常に思考し、既存の知識などを新たな学習内容と統合して理解する、思考の連鎖が行われていたということだ。私とその授業を目指したとき、指導を頂く中で教材研究と学習指導案の作成がいかに重要であるかに気付かされた。

教材研究に関しては、自身が言葉の定義を理解していないことが分かった。そのため、事象の関係を正しく捉えられていなかった。自身の知識獲得に精一杯で、その中から何を生徒に伝えたいのかという問題意識と、そのために生徒が行う学習活動は何かという点について突き詰められなかった。特に学習指導案作成に関しては、これらの点が大きく影響していた。例えば、初めて教材観、生徒観、指導観を書いた際、また、学習内容を理解させるための教師の活動と生徒の活動が目的面で一致していない点等指導案作成に当たり不十分な点があった。しかし、先生は決して「こうすべき」という結果だけを指導するのではなく、私が学習指導案に書いたことについて、なぜそう考えたのかを考えさせ、自分が理解できていない点や目的意識を持っていない点を自分で気づかせるような指導をして下さった。そのため、実習中は自分の力不足を痛感し、非常に辛いと感じることもあったが、その分やるべきことは自分の中で明確に持つことができたので、ひたすら教材研究と学習指導案の作成と修正に集中することができた。

実習を通して、先生方は社会や時代の変化を受け入れながら、常に生徒に何を学ばせるべきであり、そのためには学習活動として何を行うべきかを常に考え、研究していることがわかった。それに加えて生徒対応や校務分掌といった仕事もしなければならず、現場の大変さを少しだけ理解することができた。しかし、大阪教育大附属という環境は、自治会行事を除いて先生方にとって授業や生徒指導を「しやすい」そうだ。校務分掌にも他校では珍しい「研究部」がある。私は、このような環境で教材研究の重要性を学べたことが良かったと思う。なぜなら教師にとって、やはり授業が最優先事項だからだ。

また、わずかばかりではあるが、母校の伝統である自治会行事について積極的に行動しようとする有志生徒の相談にのる機会があった。クラスの終礼などを含め、母校の校風や自主自律の精神について、少しでも伝えられたのではないかと思う。最後に、多忙な現場で実習生を受け入れ、指導して下さったことに、感謝の気持ちでいっぱいです。